

# 救い主にお会いした人々

2025年12月21日  
降誕節

マタイの福音書 2章1～12節  
ルカの福音書 2章1～20節

序：救い主の到来は人間の墮落時からの神の約束  
いろいろな時代に何人も預言者によって告げられていた（⇒詳細、具体的に）  
時が満ちてメシアが降誕  
ベツレヘムで、男の子が（父は神、母は処女）生まれた  
神が人となって、イスラエル人の一人（アブラハムの子孫、ダビデの子孫）として  
世（罪人の住まい）に来られた

救い主にお会いした人々

マリア、ヨセフ、羊飼いたち、東方の博士たち、シメオン、アンナ

## I. ベツレヘムでお生まれになった

マリアとヨセフはともにアブラハムとダビデの子孫（イスラエル 死の繯）  
" ガリラヤのナザレに居住（普通ならそこで出産する）  
彼ら（臨月のマリアを伴うヨセフ）をベツレヘムに動かしたのは皇帝の勅令  
ナザレ ⇒ ベツレヘム 徒歩で3～4日  
自分の先祖の地に戻って住民登録（課税、兵役）  
ダビデの町＝ベツレヘム ミカ 5・2の成就  
人でごったがえし、泊まる宿もない  
（家畜小屋、畜舎、ほら穴？）  
清楚な場所ではない（家畜の汗、吐息の染み付いた）  
罪に汚れたこの世の象徴のような場所  
布にくるんで飼葉桶に寝かせた

## II. ベツレヘムの羊飼いたち

地元イスラエル人、ダビデも若い頃ベツレヘムで羊飼い（1000年前）  
社会から疎外されていた 貧しい労働者  
野宿で羊の群れを見守っていた（工作中）／人は就寝

眩い光（主の栄光）に照らされ、御使いが出現  
すばらしい知らせ（救い主降誕）

ダビデの町 救い主＝主キリスト

しるし：布にくるまって飼葉桶に寝ているみどりご

生まれたばかりの赤ん坊

天の軍勢の神賛美の合唱

神に栄光、地に平和

みこころにかなう人々にあるように

羊飼いは知らせを聞いて、話し合い、急いで救い主を捜しに出かけた

" 場所に関して大体の予想がついた

マリアとヨセフと飼葉桶のキリストを捜し当てた

この嬰兒について告げられたことを伝えた ⇒ 驚き

マリアは沈黙考、心に納めた

羊飼いたちは、見聞きしたことを御使いの告げたとおりと分かった

神を賛美しながら帰路につく 自分の持ち場、馳せ場へと戻る

### Ⅲ. 東方の博士たち

占星術師 天文学者 異邦人の賢者、富裕者  
 星に導かれて救い主を捜し求め、遠路旅をして都エルサレムに來た  
 新しい王の誕生を現す星 ∴王の宮殿が誕生の場所だと確信  
 B.C. 7年ころ、木星と土星の大接近

ユダヤの現王ヘロデも家來もエルサレムの街中が恐れ、惑い、パニックに陥った  
 B.C. 37~4 在位、純粋なイスラエル人ではない、エドム人

キリストの降誕の地を聖書の預言で確かめる (ミカ 5・2)  
 ベツレヘム (エルサレムから南8キロ)

ヘロデは、博士たちに探らせ、報告させ、幼子を殺害する意図

星に先導されて、母マリアとともにいる幼子のところまで辿り着いた  
 大いなる喜びに満たされた  
 幼子を礼拝した  
 贈り物をささげる：黄金 (王)、乳香 (聖)、没薬 (死)

夢で戒めを受け、ヘロデのところには戻らず、自分の国へ帰って行った

### Ⅳ. 結び

(1)ユダヤ人である羊飼いたちと異邦人である東方の博士は、民族的にも、社会的立場も異なるが、共通点は救い主を捜し、見つけ、お会いして礼拝したこと

(2)後にキリストの教会が、ユダヤ人信者と異邦人信者とで構成される起点

(3)それぞれ、一時的に仕事、職務を置いて救い主を捜し求めた  
 救い主にお会いした後、羊飼いは野に、博士たちは自分の国に帰って行った  
 彼らは救い主のそばにずっと留まれないが、イエス・キリストはいつも私たちとともにいてくださる (インマヌエル)

(4)救い主にお会いするのに、進んで喜んで犠牲を払った  
 困難や危険も通った

(5)救い主へのささげものは自分の持っている最高のものを、ふさわしい態度で献ぐ  
 礼拝 (賛美、祈り、みことばに従う)、奉仕 (主の証、伝道)、献金

(6)救い主にお会いするといっても千差万別であり、みな動機、導き、方法、時が違ふ  
 しかし求める人は必ず与えられる、道が開かれる

